

ISSN 2433-9997

国際 I C T 利用研究学会 研究会研究論文誌

Transactions of the IIARS

1

TIIARS
2025 年 第 4 卷 第 1 号
March 2025 Vol.4 No.1

目次

巻頭言

AI時代の大学教育：活用と批判的思考のバランス

国際ICT利用研究会 理事 木川 裕 1

実践論文

タイピング能力上達要因とタイピングスコアに関する一考察

新井 愛 (アライドシステム), 中村 菜摘 (富士通 Japan),
山下 倫範 (立正大学) 3

論文

コルプの経験学修モデルを実装した「クイズ駆動型授業」による
看護師・保健師向け「人体の構造と機能」講義の試み

神崎 秀嗣 (秀明大学 看護学部) 7

データサイエンス学部に於ける数学教育と形式化数学の活用
－定理証明支援系と大規模言語モデルを活用した数学教育の可能性－

渡瀬 泰成 (立正大学 データサイエンス学部) 11

編集後記

国際ICT利用研究会 理事 佐藤 礼華 (大阪電気通信大学) 16

AI時代の大学教育：活用と批判的思考のバランス

国際 ICT 利用研究会
理事 木川 裕

大学で授業をしていると、学生から「授業でAIを使ってもいいですか?」とよく質問されます。私はAI活用に対して肯定的な考えを持っているので、「どんどん使えばいいんじゃない」と答えることが多いです。しかし、私の勤務先は文系大学(法学部)ということもあり、情報教育やICT活用に否定的な先生方も少なくありません。残念ながら、AIの利活用に関しても慎重、あるいは後ろ向きな姿勢が目立ちます。そんな中、最近Bloombergに「AIで人類退化、マイクロソフトが認めた真意は」(Parmy Olson 2025/2/18)というタイトルの記事が掲載されました。これは、マイクロソフトとカーネギーメロン大学の研究をもとに、AIを使うことで批判的思考力が低下する可能性がある」と指摘する内容です。「どんどん使えばいい」と推奨していた身としては、少し肩身が狭い気持ちになりました。



記事によると、AIを活用することで文章作成や分析、批判的評価を自分で考える機会が減り、特に時間に追われていると、AIの出した結果をそのまま受け入れてしまう傾向が強まるそうです。

こうした指摘を考えると、AIの活用には慎重な姿勢も必要かもしれません。しかし、今後の社会においてAIを使わないという選択肢は現実的ではなく、むしろその役割はますます重要になっていくでしょう。ここで重要なのは、AIの利便性を活かしながらも、学生の思考力や創造力を育むためのバランスを取ることです。

例えば、膨大な資料の中から必要な情報を見つけ出し、要点を整理する作業はAIの得意分野です。しかし、AIが提供する情報をそのまま受け入れるのではなく、出典の信頼性を確認し、異なる視点から検証する批判的思考力を養うことは、大学教育において不可欠です。また、研究の方向性を考えたり、新しい視点で課題を探求したりすることは、人間の役

割として重視されるべきでしょう。

このように、AIと共存しながら、より高度な知的活動を目指すことが、これからの大学教育において重要な課題となります。私たち教育者にとっても、AIとの向き合い方が問われる時代になってきました。

略 歴

2003年「私立大学情報教育協会賞」受賞

2010年「平成21年度情報教育研究集会最優秀論文賞」受賞

2022年「AXIES2021（大学ICT推進協議会2021年度）年次大会優秀論文賞」受賞

2021年～ 日本大学法学部 教授

編集後記

新年度の2025年を迎え、研究会研究論文誌 第4巻第1号を発行する運びとなりました。これまで、さまざまな学会活動にご参加・ご協力いただき、心より感謝申し上げます。

今回発行する研究会研究論文誌には、情報教育推進における実践的な情報活用能力に関する考察、経験学習のプロセスのモデル化の試み、数学教育におけるデータサイエンスを活用した人材育成の手法などが掲載されています。これらの論文からも、ICT活用が多様な分野で盛んに進められていることがうかがえます。

本学会はICT利用に関する研究を主な領域としていますが、ICTは汎用性の高い技術であり、さまざまな分野でその効果を発揮し、課題解決や新産業の創出を加速させています。現代は急速に変化する時代であり、便利なシステムやツールが次々と開発されています。今後も、ICTのさらなる発展と多様な分野への活用が期待されるでしょう。

また、近年ではAI(人工知能)の応用がますます注目されており、ICT技術と相互に支え合いながら発展を遂げています。AIは現代のテクノロジーの中核を担い、私たちの生活や仕事に革新をもたらしています。国内外におけるAI関連の研究も急速に進んでおり、今後さらに多様な活用方法が求められるでしょう。AIシステムは、デジタル産業を変革するさまざまな可能性を秘めています。ICTとAIを活用したイノベーションは、本学会の「情報社会の実現に向けた活動」や「ICT利用の理解促進と社会の発展への貢献」といった方針にも合致しています。今後も、ICTおよびAI技術の活用に関する議論が活発に交わされ、社会貢献と持続可能な発展の推進力となることが期待されます。

これからも、社会のICT環境の発展・改善に尽力するため、会員の皆様の研究活動がますます活発になり、その成果が刊行物や発表を通じて広く共有されることを願っております。引き続き、皆様のご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

国際ICT利用研究学会 理事

大阪電気通信大学 総合情報学部 准教授 佐藤 礼華

国際ICT利用研究学会研究会論文誌 第4巻 第1号

Transactions of the IIARS Vol.4 No.1

2025年3月31日 発行

発行者 国際ICT利用研究学会 研究会論文誌編集委員会 (委員長 山下倫範)

表紙デザイン 内藤慶恵

印刷 株式会社カンファレンスサービス

問合せ先 office@iiiar.org